

警 田 市 洪水ハザードマップ

(想定最大規模降雨)

このハザードマップは想定し得る最大規模の降雨による浸水想定と深さ、避難場所などの情報を示したもので、避難ワークシートとしても活用できます。いざという時に備えて、家族や近所の方と避難場所や避難の方法を話し合ひましょう。

我が家の防災情報

家族の避難場所

①	
②	

我が家の状況

我が家の浸水深は？ m

我が家の浸水継続時間は？ 時間

我が家は家屋倒壊等氾濫想定区域か？ はい いいえ

自宅から避難場所までの経路を確認しましょう

日常時において、自宅から、最寄りの避難場所までの避難経路、移動にかかる時間、道路の冠水が想定される地下道等の危険箇所等を確認し、安全、迅速に避難できるように、地区別の地図を活用しましょう。

■作業の手順

手順1
地図上の、自宅がある位置に「①」、最寄りの避難場所に赤字で「②」と書き込んでください。

手順2
「①」から「②」までの移動経路や距離、移動時間を書き込んでください。

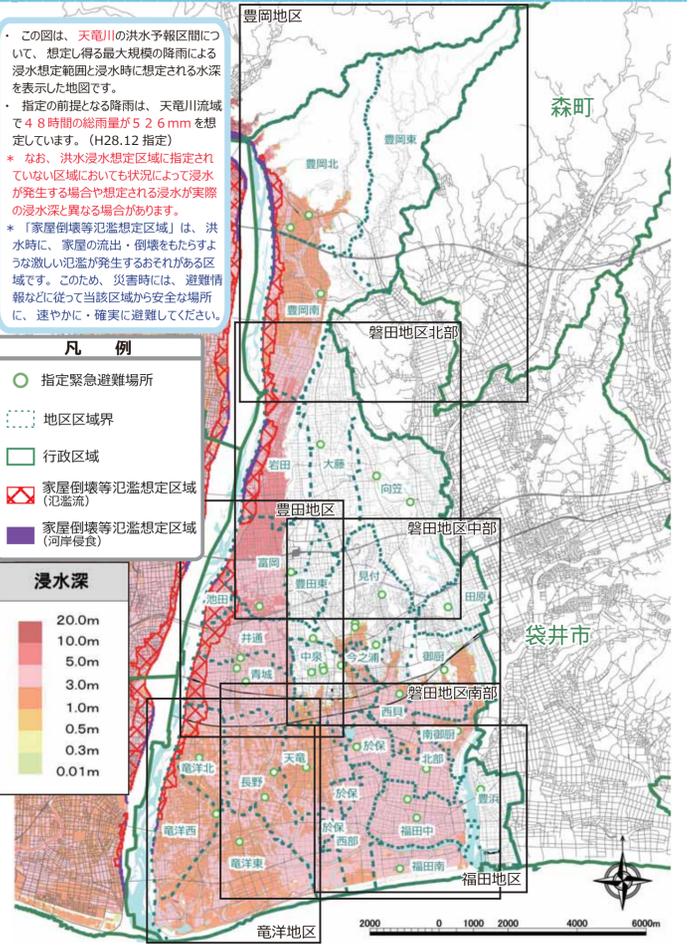
手順3
避難時に危険箇所を可能な限り回避しながら、「×」等も書き込んでください。

自宅以外の場所でも、②、③等を使い、手順1〜3を繰り返し、避難場所や避難経路を確認してください。

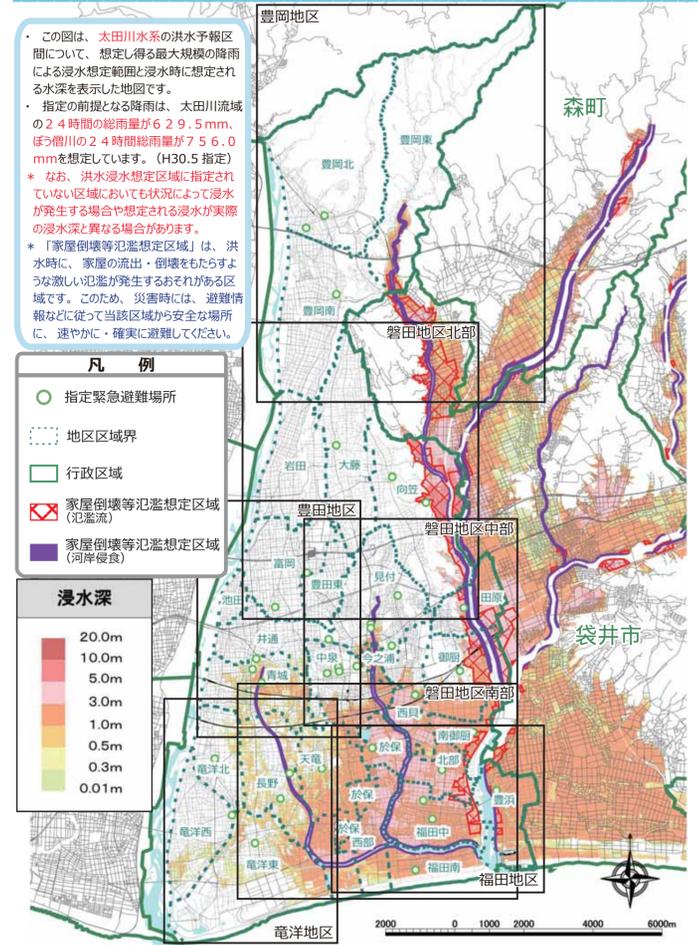
- 避難経路は、移動手段（徒歩、自家用車等）によって複数の経路を確認してください。
- 移動時間は、降雨の状況もふまえ、余裕をもった移動時間を書き込んでください。

発行：令和4年3月 問い合わせ先：磐田市危機管理課 0538-37-2114

天竜川のハザードマップ



太田川水系のハザードマップ



災害から命を守るために / 円滑な避難をするために

「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでの備えをいつからはじめるのか、考えてみましょう！

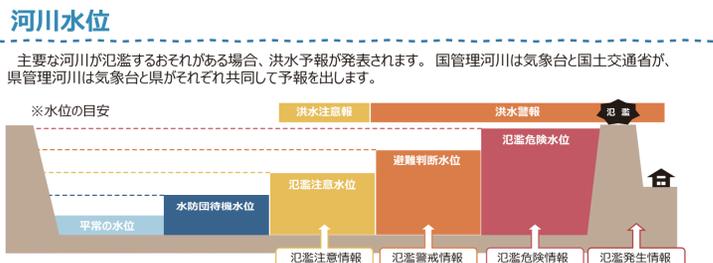
時間経過例	河川の状況等	行政から発信される情報	備えの例
3日前	台風が発生 警戒レベル1	黒：気象情報 青：河川事務所 緑：磐田市 白：風予報 ○台風に関する気象情報(随時)	○テレビの天気予報を注意 ○ハザードマップで避難場所、避難手段を確認
2日前	台風が近づいて、雨や風がどんどん強くなる 警戒レベル2	◇大雨注意報・洪水注意報 ○台風に関する今後の見通し	○避難する時に持って行く物を準備する ○家の周りに風で飛ばされるようなものはないか確認 ○テレビ・インターネット・メール等で雨や川の様子を注意 ○家族全員今後の予定を確認 ○住んでいる所と上流の雨量を調べ始める
1日前			○川の水位を調べ始める ○携帯電話の充電 ○通行止めの情報がないインターネットで確認
半日前	雨が集まって、川の水がどんどん増える 警戒レベル3	【水防団待機水位到達】 洪水予報(氾濫注意情報)発表 避難場所の開設準備	○避難しやすい服装に着替える 危険な場所から高齢者等は避難 ○川の水位・気象情報をインターネットで確認 ○市内の指定避難場所や安全な場所(親戚宅や知人宅)への避難を判断 ○移動に時間のかかる人は、市内の指定避難場所や安全な場所(親戚宅や知人宅)への避難開始を判断 ○安全な所へ移動を始める
5時間前	川の水がいっぱいであふれて 警戒レベル4	【氾濫危険水位到達】 洪水予報(氾濫危険情報)発表 緊急速報メール(河川氾濫のおそれがある情報) 避難指示	○避難しやすき服装に着替える 危険な場所から高齢者等は避難 ○川の水位・気象情報をインターネットで確認 ○市内の指定避難場所や安全な場所(親戚宅や知人宅)への避難を判断 ○安全な所へ移動を始める
3時間前		【氾濫発生】 洪水予報(氾濫発生情報)発表 緊急速報メール(氾濫が発生した情報) 緊急安全確保	○市内の指定避難場所や安全な場所(親戚宅や知人宅)への避難を完了 災害発生又は切迫した状態
0時間	川の水が氾濫 警戒レベル5		

風水害について

気象庁による気象情報

大雨による災害のおそれがある場合、気象庁はさまざまな防災気象情報を発表します。防災気象情報が出されるタイミングやその意味するところを理解し、いざというときの避難に備えましょう。

警戒・注意報等	大雨注意報 洪水注意報	大雨警報 洪水警報	土砂災害警戒情報	大雨特別警報	記録的短時間大雨情報
警戒・注意報等	警戒になる可能性がある大雨や洪水によって災害の発生するおそれがある予想される場合	大雨や洪水によって重大な災害の発生するおそれがあるとの予想される場合	土砂災害の危険度がさらに高まった場合に発表 避難情報などの発令、住民の自主避難の判断等の目安となる情報	数十年に一度の大雨と発表	数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測したり、解析したときに発表



土砂災害の種類

大雨の際、たとえ避難に関する情報が発令されていなくても、近隣の斜面の状態に常に注意し、次のような前兆現象に気がついたときには直ちに安全な場所に避難してください。避難場所に避難することが危険な場合は、上階がけがから速い部屋に急いで移動してください。

- 土石流**
山腹、川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されるもの。
【前兆現象】近くで山崩れが発生する、立木の根が揺れる音がする、渓流の水が急に濁る
- がけ崩れ**
地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちること。
【前兆現象】斜面に亀裂が走る、小石が斜面から落下する、斜面から異常な音がする
- 地すべり**
斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のこと。
【前兆現象】地鳴り、家鳴りがする、地面が振動する、亀裂や段差が発生する

防災・避難情報の入手

防災情報を入手する

防災情報は、テレビやラジオ、インターネットなどいろいろな方法で受け取ることができます。そのほか、緊急速報メール^{※1}や同報無線^{※2}でも情報が提供されます。

- メールで入手 e-mail**
【いわたホットラインに登録しましょう】
・携帯電話やパソコンなどのメール機能を利用して、情報発信。
- 手軽に入手**
【データ放送を活用しましょう】
・テレビデータ放送で、天気や、防災情報を入手。
- インターネットで入手**
【インターネットで入手】
【静岡県防災】
【磐田市 防災リンク集】
【総合防災アプリ】
【サイボスリーダー】
【気象庁】

※1 気象庁が記する津波警報、国土交通省が発する洪水情報、国や地方自治体が配信する災害・避難情報など緊要を要する情報を、特定エリアの携帯電話へ自動配信するシステム
※2 気象情報などの防災情報を市内に放送する無線

市からの情報と避難行動

災害の危険が迫って住民の避難が必要になった場合、市は避難に関する情報を発令します。市民のみなさんは各情報に応じた行動をとってください。

市から避難の呼びかけをする情報の種類

警戒レベル	とるべき行動	呼びかけ	避難情報等
レベル5 氾濫の発生又は切迫	既に災害が発生または切迫している状況です。外へ避難することがかえって危険な場合は、命を守るための最善の行動をとりましょう。	○川の水位が既に堤防を越え、氾濫が発生しているおそれがあります。(又は氾濫が発生しました) ○〇地区に対し、警戒レベル5「緊急安全確保」を発令しました。	緊急安全確保(磐田市が発令)
レベル4 氾濫危険水位	危険な場所から全員避難しましょう。	○川が氾濫するおそれのある水位を超え氾濫する危険性があります。 ○〇地区に対し、警戒レベル4「避難指示」を発令しました。	避難指示(磐田市が発令)
レベル3 避難判断水位	避難に時間を要する人(高齢の方、障がいのある方、乳幼児など)とその支援者は避難を開始しましょう。その他の人は必要に応じ、普段の行動を見合わせたり、避難の準備をしましょう。	○川が増水し氾濫するおそれがあります。 ○〇地区に対し、警戒レベル3「高齢者等避難」を発令しました。	高齢者等避難(磐田市が発令)
レベル2 氾濫注意水位	ハザードマップ等で災害が予想される地域や避難先、避難経路を確認しましょう。		大雨注意報 洪水注意報 (気象庁が発表)
レベル1 水防団待機水位	最新の防災気象情報等に留意し、災害への心構えを高めます。		早期注意情報 (気象庁が発表)

避難の際の心得

避難先・避難ルートを確認する

浸水に対して安全な避難先とルートを平時から家族や地域で確認しておきましょう。避難先は必ずしも市が準備した避難場所である必要はありません。安全な親戚宅、知人宅、職場なども避難先の選択肢になり得ます。

避難の方法を確認する

自家用車での避難は、道路冠水や交通渋滞に巻き込まれる可能性もありますのでやめましょう。どうしても自家用車での避難をしたい場合は、さらに早めの避難開始が重要です。避難は原則として、市指定の避難場所や安全な場所(親戚宅や知人宅)への「立ち退き避難(水平避難)」です。自宅の上階に留まること等により身の安全を確保する「屋内安全確保」はハザードマップ等を確認し、自ら判断する必要があります。

立ち退き避難
・その場を立ち退き、近隣の少しでも安全な場所や避難場所等に避難すること。

緊急安全確保
・立ち退き避難が安全にできない場合、命を守るため少しでも安全な場所に移動すること。

避難に際して心がけること

避難とは **難を避けること、安全を確保すること** です。
安全な場所にいる人は、避難する必要はありません。

実際に避難する際には、以下の点に心がけましょう。

早めの避難	ご近所への声かけ	豪雨時の避難
・浸水からの避難は危険です。降雨や河川水位などの情報をもとに、身の危険を感じたら避難情報待たずに自主的に避難を開始してください。	・単独での避難は、思わぬ事態が起きた時に緊急時必要に応じて、身の危険を感じたら避難情報待たずに自主的に避難を開始してください。	・豪雨時の屋外避難は危険です。車の移動も控えましょう。

避難する際(やむなく浸水の中を歩く時)の注意

- 避難するときの荷物には必要最低限としましょう。
- 長靴や裸足は禁止です。運動靴をきましょう。
- 動きやすい服装で、2人以上での行動を心掛けましょう。
- 歩ける深さは、膝下までです。水深があるようなら高いところで救助を待ちましょう。
- 長い棒を杖代わりにして、水中の障害物に注意しましょう。

日頃の備え

建物周囲の安全確認

家の周囲にも災害が発生すると危険なところがたくさんあります。日ごろから危険個所がないか点検を心がけましょう。

- 雨水桝や側溝の清掃
- 家の修理(屋根瓦のずれ、雨どいのつまり)
- 風で飛ばされそうなものなどの安全対策
- 土壌の準備

非常持出品などを準備する

非常持出品や備蓄品を準備しましょう。また、自分や家族にとって欠かせないものを検討して追加しましょう。

最低限備える「災害時の必需品」	2〜3日分備える「非常持出品」	1週間分以上備える「備蓄品」
・災害は突然発生します。「自分にとって、わが家にとって」災害時に必要なものを整理し、いざという時に備えましょう。	・避難場所で1〜2泊くらいできるくらいの水・食料・生活用品を準備しましょう。 ・日ごろから非常持出品などにまとめ、すぐに持ち出せる場所に用意しましょう。	・長期の孤立に備え水や食料などの備蓄品は最低限3日分、また、1週間分準備しましょう。また、備蓄食料のうち3日分はできるだけ調理不要なものを用意しましょう。

防災用品チェックリスト

品名	準備完了✓	品名	準備完了✓
リュックサック(非常持出品用)		衣類・下着	
飲料水		寝袋・ブランケット	
非常食(調理不要なもの)		軍手・タオル・ウェットティッシュ	
携帯ラジオ・懐中電灯		貴重品(現金・通帳・保険証)	
乾電池		医薬品(常備薬・救急セット)	
携帯電話(充電器・バッテリー)		マスク・アルコール消毒液・体温計	
雨具(カッパ)		個別に必要なもの(介護用品・生理用品・ベビー用品)	

1週間分の目安(1人分)

飲料水	1日3リットル × 7日 = 21リットル
食料	3食 × 7日 = 21食

カセットコンロ・カセットパン
あたためる調理を楽にできます

1日3リットル × 7日 = 21リットル

ボンド1本で1.5Lのお湯が約10回つくれます

ローリングストック法(回転備蓄)
日ごろ使う食材や非常用の食料品を、消費しながら備蓄していく方法。

食ったら... 買い足す!